

野尻先生とのアメリカ横断

古井 恒

何せ私が一九八〇年に日通総合研究所（以下、総研と略記）に入社した頃には、野尻先生も総研にいらしたので、それ以来となると相当に長いお付き合いということになります。当時の総研には流大出身の一期生、三期生、そして五期生の野尻先生と先輩方が三人も在籍していたので、皆さん、八期生の私のことを何かと面倒見てくれました。ただし後輩なので「おい古井」と呼び捨てでしたが。時に「古井さん」などと呼ばれると、ん、こりゃ何かあるかもと身構えたものです。

野尻先生が『規制改革と競争政策』を出されたのが一九八四年一月ですから、多分、その後の時期だと思えます。実はいつだったのか正確には覚えていないのですが、野尻先生と二人でアメリカに出張し、アメリカ運輸事業のデイレギュレーションのその後の状況などを調査しました。全日本トラック協会からの委託調査だっ

たかと思えます。とはいえ、アメリカの運輸事業に関してはほとんど何も知らない、ましてその時が初めてのアメリカであった私が、なぜくつついて行くことになったのかはよく分かりません。当時の総研では、研究員はそれぞれトラック、鉄道、航空、港湾などの守備範囲ごとにチームを組んで、受託テーマにあたっていましたが、私はむしろ港湾畑にいたのです。

野尻先生にしてみれば、何度となく訪れ、その調査の過程で親しくなったアメリカ政府関係者や全米トラック協会の方々とさらに情報交換するための訪米だったはずです。後から考えると報告書作成の手伝いをさせようか、はたまたアメリカってどんな所なのかを後輩に見せてあげようというおつもりだったのかも知れません。という訳で、アメリカ通の野尻先生と、ほとんどお上りさん（もう死語かも）同然の私は、多分、J・F・K空港だったと思いますが、アメリカの地を踏むことになります。到着後、私は空港のアナウンスすら聞き取れないというのに、野尻先生はさっさとタクシーと交渉してくれてダウンタウンに向かうことになります。野尻先生やるもんだ。それに引きかえ私は。こりやあ大変な所に来てしまったかという印象が今でも鮮明です。

お上りさん同然の私ですから、その後どこを訪問してどんなインタビューをしたのかもよく覚えていませんが、断片的な記憶ではニューヨーク、ワシントン、オタワ、（休日にナイアガラ滝）、シカゴ、ロサンゼルス、サクラメント（カリフォルニア州の州都）などを訪問したことは確かです。アムトラックを利用しながらアメリカ大陸を東から西へ横断する旅となりました。

ここからは私の回想ですが、主に大陸横断鉄道、そして野尻先生に連れて行ってもらったレストランなどの話です。

まず大陸横断鉄道です。ふるさと秋田への帰省で、多分一度か二度は乗ったことのある寝台特急「あけぼの」B寝台以外知らない私にとっては、これは快挙でした。狭いながらも何とシャワー、トイレ付きのコン

パートメントという豪華版でした。とはいえ、シカゴを出発した後の日中の景色は行けども行けどもトウモロコシ畑です。そのうち大型の貨物船が畑の後方にヌ〜と出てきたり、農家の納屋にはセスナ機が置いてあるとか、驚くことばかりでした。また、食事の後はテールブルクロスの四隅を持ち上げてガチャガチャと即刻、片付けたとか、時計を一時間違らせよという車掌さんの声、砂漠の真ん中にあるようなアルバカーキ駅では、ということはサンタフェ鉄道か、しばらく停車している間にヒスパニック系のおばさんから手作りのブローチを買ったりもしました。いずれにしてもアメリカの大きさを正に実感する体験でした。なお、野尻先生とは食事の時以外、ほとんど顔を合わせなかったかも知れません。はたして野尻先生は何をされていたのでしょうか。

野尻先生はかなりの健啖家、そしてとても優秀な現地ガイドさんかも知れません。今でもよく覚えていたのは、ロックフェラー広場の地下のレストランです。多分ステーキだったのですが、そこに添えられている巨大なジャガイモです。野尻先生は平気で食べてしまいました。また、どこかは完全に忘れましたが、ベトナム料理のレストランでは、ロブスターのオイル揚げを油で手をベトベトさせながら美味しく頂いたこと、ロスの郊外にあるMacの一号店に連れて行ってくれたのも野尻先生でした。また、ロサンゼルスだと思います。インタビュー調査の後にランチミーティングとなり、その時は関係者がぞろぞろといっぱい出てきて、野尻先生と親しく話されていました。あ〜こういう時には飲物は大きなグラスのアイスティーなんだと、妙に納得したりもしました。

という訳で大満腹、大満足でロスから機中の人となったのですが、この旅で野尻先生から教えて頂いた大事なことがあります。それはインタビューのヒアリングメモ、入手した資料は、その日のうちにある程度整理しておくなさい、ということですが、その後、私自身、総研時代に海外研修団のコーディネーターとして各地を訪問する機会がありました。が、「メモの整理はその日のうちに」は、報告書作成のためのネタは新鮮なうちに

キープしておくもの、というとても貴重な、私のその後の行動指針となっております。
野尻先生、何から何まで、どうもありがとうございました。